

編集後記

今号では、何と言っても甲元先生の受賞記事です。受賞記事と言っても、ほぼ先生の半生の話で、冒頭の語りべ調に始まり、著名な先生、赤裸々に語られる人間関係、研究や環境の展開などにすっかり惹き込まれ、そしてその率直な物言いに「物理学者」の生き様を感じ、また、ラストが。。。私には少々難解な研究の話はありましたが、あっという間に読んでしまいました。

さて、現在、外国人客員所員としてジョンスホプキンス大学(JHU)のアーミテージ教授が滞在されています。今回の大槻特任研究員の記事はアーミテージ教授との共同研究で、同JHUとの共同研究の成果としては肥後特任研究員の記事もあります。JHUの物理・天文学科とは、頭脳循環プログラムからの経緯でMOUを結ぶことになりました。また、本号の冒頭の記事を書かれた石田助教は、記事の中にも書かれていますが、東大の国際展開事業として韓国の理研とも例えられる基礎科学研究院の強相関グループ(ソウル大学内)に、今年の4月から1年半の予定で派遣されており、このグループとも学術協定及びMOUを結んでおります。この秋に国際共同研究・共同利用拠点の申請があり、残念ながら採択はされなかったのですが、今後、国際的な取組による共同研究の成果が、この物性研だよりも益々紹介されることになっていくと思います。

最後に1つ。短期研究会「量子情報・物性の新潮流」では、記事にもありますが、非常に沢山の若い研究者、特に学生が集まり、私は会場に居たのですが、まさに熱気があり何かが起こりそうな雰囲気を感じた研究会で、とても印象的でした。

鈴木博之